



写真 2.1 崩壊源頭部全景



写真 2.2 太陽光発電施設の状況

2.3 令和2年7月豪雨に係る熊本県球磨村の被害分析（Ⅳ編参照）

2.3.1 目的

令和2年7月豪雨により荒廃した山地の被害特性を把握することを目的に、熊本県球磨村を対象に調査を行った。

2.3.2 業務内容

（1）林地状況と崩壊・土砂流出の関係に係る分析

球磨村における森林簿等の林地状況データと、令和2年7月豪雨後の航空レーザ計測結果から抽出した崩壊・土砂流出箇所のデータを重ね合わせるにより、伐採面積、林齢、人天別、雨量、地形、地質等と崩壊の関係性について分析を行った。

（2）現地調査

伐採箇所とそれ以外の林地において、立ち入り可能で代表的な崩壊・土砂流出箇所を抽出し、崩壊地の土質、植生、近接する路網の状況等を確認するため現地調査を実施した。この際、近年の伐採箇所における崩壊・土砂流出箇所については、伐採面積や伐採時期、再生林の有無等の条件に応じて複数の崩壊地を選定した。

現地調査箇所は、熊本県の管理する県有林である「梅尾団地」を対象とし、調査は目視調査に加えドローンによる調査を並行して行った。

（3）結果のとりまとめ

上記の結果から、林地状況と崩壊・土砂流出の関係について整理するとともに、本調査における課題をとりまとめた。

2.3.3 検討結果要約

（1）林地状況と崩壊・土砂流出の関係に係る分析

検討結果を要約し表 2.4 に示す。